

ここ数日、急に寒くなってきたら、かつて雪中野営でイグルーを作り、数日暮らしながら日中はスキー場へ通って滑降を楽しみ、スノーモービルを運転したことを思い出した。パソコンに当時の報告レポートが保存してあったので、読みながら思い出しながら内容を微修正しUPしてみた。

ボーイスカウト湘南地区藤沢8団VSRS隊で1987年から継続的に実行していた雪中野営経験をベースに、2001年&2002年福島県の「会津VS隊：白虎隊」との合同雪中野営の企画をきっかけとして立案されたプロジェクトだった。

この前年の2000年春、藤沢8団RS隊のN君が県立会津大学に合格し、会津大学で知り合いになった地元ボーイスカウト関係者との交流から、会津と湘南藤沢合同で雪中野営を行ったかどうかという話・提案があり、メンバー全員で了承、実行することになった。合同プロジェクトとして実行したこの2年間では、湘南地区からは藤沢8団の他に藤沢6団、18団、21団、のVS数人と指導者数人も合流した。

合同プロジェクトの内容は、雪を活用したイグルー・カマクラ・雪洞作成・寝食炊事生活を基本とした厳冬積雪期の「原始的雪国生活体験プログラムとスキー滑降トレーニング」である。

「イグルー・カマクラ・雪洞」の製作は、多くの試行錯誤と創意工夫・製作経験の蓄積のある地元会津のスカウト達が先頭になって指導し、湘南のスカウト達と私たち指導者がその教えを学ぶ・・・という形であった。

昼食後の午後1時から製作労働を開始し、夜中の午前1時に完成した過酷なプログラムであった。しかし、次の日は6時起床である。疲労感もかなりあったため、寒さを感じることもなしにしっかり熟睡できた。

深夜の気温はマイナス15以下まで下がり、空腹と疲労と寒さ冷たさを乗り越えた苦闘の末、完成した。幸い夕方以降は風が弱かったため体感温度の低下をそれほど感じなかったし、動いていれば暖かいので、気温の数値ほどの寒さを感じることもなかった。

まあ、必死で作っていたのでそういう寒いと思う暇も心の余裕もなかったというのが実情であったが・・・



なにしろ、作らないと寝る場所がないので、当然必死になる・・・夜になったら困るから。

(プラスチックコンテナに雪を硬く詰めブロックにして積む。ドーム状に積み上げるためブロックは緩い台形とする。バケツの中に水が入っていて水を接着剤=凍らせることで固まる=として使う。)

しかし、夜になっても完成しなかったのだが・・・この時で夜の9：00くらいだったように思う。



正確に積み上げる。



黙々と作業する。



あと少しでドームが出来る。



内部：1ブロックで天井が完成



午前1時、深夜に内部天井をふさぎ完成  
空気穴の煙突を作る



頭上には小さく満月が輝く  
雪のブロックを運ぶスカウト

ようやく、イグルー：寝る場所が完成した。中は広く10人が寝ることができるし、立っても頭が当たらないくらい高い。とても立派な雪氷の住居であった。

雪氷のため、内部の温度は常に0度くらいで保たれている。

外部はマイナス15度くらいであるため、イグルー内部は0度でもとても暖かく感じる。雪壁は40cmくらいの厚さがあり、断熱性能と吸音遮音性能が抜群に優れていた。そのおかげで中は無音状態でもとても静かな空間、真っ暗闇のため熟睡できた。入口から寒い空気が入らないように曲がりくねったトンネル状の通路を歩行雪原より地下部分に掘って作った。モグラのようにして入る。

これだけの人数  
のスカウトと指  
導者が参加した。



とても良い経験であった。  
会津の方々に深く感謝。

雪洞を作ったスカウトたちもいた。  
この中では確か3名のスカウトが寝ていた。  
雪洞は雪山登山でビバーク（一時避難）する  
時に掘って作る。  
イグルーよりも短時間で製作（掘る）する  
ことができるが、作る場所に気をつけなければ  
ならない。  
上を歩くと落ちる可能性があるからだ。  
雪洞もイグルーと同じく空気穴を作っておく  
ことが大切なポイントであった。



スカウト達が日中のプログラムに出かけた  
時、強烈なブリザードが野営地を襲った。  
留守番役の指導者（私とF6団のY氏）が  
強風と降雪で崩壊した食堂を掘り出す。  
\*奮闘する黄色いウエアがY氏  
いくつかのテントも吹っ飛んだ・・・  
と言うか、空を一瞬で飛んで行って降雪の  
中にうずもれていた。それも掘り出す。  
アンカーしてあったのだが、効果は無かつ  
たほどの猛烈な強風であった。



しかし、イグルーと雪洞はまったく問題なく存在を保っていた。  
イグルーは降雪により、その形状が雪の小山 = 雪原の小さな丘のようになってしまい、雪の中の風景  
に溶け込んでいた。・・・どこから見てもイグルーとは思えなかった。

初体験の雪原樹林内での「かんじき歩行、スノーモービル走行」に  
ついて、教えていただき楽しませていただいた。



\* 後方でかんじき歩行

凍った湖に穴を開けてワカサギを釣るプログラムもあったが、この年はとても寒く氷が厚いため、このチームの持参した道具では穴を開けることができなかつたため、断念・・・残念であった。

また、湘南チームは、野営地から南の方向にある裏磐梯猫魔スキー場と磐梯山猪苗代スキー場まで遠征し、日中はスキー章の取得を目指しトレーニングを行う。会津チームは、スキーは何も特別なものではないので、野営地周辺の凍った湖で独自のプログラムを実行する・・・という形をとった。

こちらは、カマクラ作りチームのスカウトたち。



雪の小山を作り、両サイドから掘り進む。穴が貫通してから内部をドーム状に掘る。外からは雪の山にしか見えない。イグルーよりもとても早く完成可能の方法である。2時間くらいで完成した。これも会津のスカウトたちのノウハウがあってこそのものだ。



湘南のスカウトだけでは思いもよらない、考え付かない方法であった。

夜間作業でイグルーを作るスカウトたちに夜食のチーズフォンデュの準備をしているRSと指導者。



RSたちの夜食はラーメン  
湯気がすごい



これが炊事場の傍のカマド場。

会津のスカウトたちの雪中野営での方法。

地面が出るまで、ひたすら雪原を掘って作る。この時で2m～2.5m下まで掘った。



薪を使うのは費用を削減するため。

薪は会津のスカウトの自宅から持参してきたもの。

彼らの家は、大概・裏山とか山林とか畑を持っているため、薪は家に常備してあり、野菜も購入する必要がなく、畑から引っっこ抜いて持ってきて野営をするとのこと。

合理的でありスローライフそのものであった。

このカマドは、雪の上で薪に火をつけて燃やすと雪が解けてカマド自体が沈下していくか、鍋類が沈む・・・あるいは転倒し料理が台無しになることを防止するために使う。

地面までひたすら頑張って掘って煙突付移動式カマドを設置する。煙突がないと火の番のスカウトが酸欠・一酸化炭素中毒になってしまうため、この煙突は必需品。

この移動式ステンレス製カマドも会津のスカウト装備。

会津では普通に市販しているカマド、1500円で購入できるらしい。

今までの湘南藤沢8団の我々のやり方は、ホワイトガソリン使用のピーク1かガスカートリッジのEPI類のバーナーを使って炊事していた。こんな豪雪エリアで薪炊事が簡単に平気ではできず、とても驚いた。このカマドは驚愕に値する優れものだと思った。



リーダーRSのテントサイト。雪ブロックの防風壁で囲む。

防風だけで随分テント内の気温が異なる。

これがないと凄く寒い。

ここに載せた写真と文以外にも多くのことがあったが、後輩スカウトたちに参考になるような内容はこのレポートにまとめたものくらいだと思う。

今後、いつか誰かが実行しようと考えた場合には、このレポートを参考にしながら、更に進歩した独自の発想を入れ込んだ魅力ある雪中野営を実践してほしい。

また、参加したスカウトたちは、富士章を目指し「高度な野外活動の実践」と「雪国の生活文化についての考察：文化活動分野」をアワードのテーマとしていた。

この参加スカウトの内、湘南藤沢8団のスカウト1名と会津のスカウト数名が見事に富士章を授与され富士スカウトとなった。

藤沢8団のスカウトのアワードは、雪国文化の分析考察プロジェクトとして整理してあった。

イグルー・カマクラは世界の厳寒地方にそれぞれのかたちで存在しているため、これらの雪と氷の居住空間を調べ、自分たちの作ったものと比較考察する内容の小論文レポートであった。

終了後、提出された考察レポートに「日本を含めアラスカエスキモーから北欧まで比較対象とした広い視野」に高い評価を与えた記憶がある。

最後に指導者として彼の富士章の申請時にまとめ日本連盟に提出したコメントを追記してレポートを終えることにしたい。

会津白虎隊との合同活動で作成したイグルー・カマクラ・炊事場・食堂は、見事な出来映えであった。作成に12時間ほどを費やした価値は大変高い。

その中での生活もスカウトらしく、てきぱきとしており高く評価した。

実行面は誇らしいものである。調査分析面に少々手間取った感があったが、論文を書くような雰囲気、頑張ったことに自信をもってよいと思っている。

内容・テーマ・質の高さ等の充実度が目標となった。雪の中でのハイレベルな野営体験をきっかけとして、日本をはじめ世界の厳冬地域の生活文化を調査し、同一的な特徴と雪を活用した知恵・工夫を考察するプロジェクトは、ベンチャースカウトとして取り組むのにふさわしいものであったと評価する。高度な内容のレポートをまとめた力量を高く評価したい。

他等々・・・という評価を記載した。

以上